

てしかが歴史写真館 128



保道車

北海道開拓においては、木の伐採や抜根、農作物などの運搬や人びとの移動にと、まさに人馬一体で活躍しました。

荷物などを運ぶ荷車は、木の輪に鉄板でできた金輪をかぶせて補強した車輪でした。荷車は地面と接する車輪の幅がせまく、重い荷物を引かせると土砂道や砂利道を傷めることがありました。

自動車の時代が来つつあったころから、自動車のゴムタイヤを利用した「保道車」が現れます。地面から来る振動をタイヤが吸収してくれ、道路の傷みも少なく、荷車を引く馬も以前の金輪とは違って助かったことでしょう。昭和30年代後半ころまで弟子屈の街の道路では、ごく普通に自動車と一緒に保道車が仕事をしていました。写真は、摩周湖へ向かう道路の釧路開拓実習場付近と思われ、実習生が牛乳を詰めた集乳缶を運んでいる様子です。

冬には荷車からワリに替わるのですが、馬が落とすものは変わりませんでした。

てしかが郷土研究会(松橋)



「まだまだカブは抜けません」

11月6日に行われた、摩周丘幼稚園お遊戯会での1コマです。3歳児が劇「おおきなかぶ」を披露。毎日一生懸命練習してきた元気いっぱいの演技に、会場の保護者などから大きな拍手が贈られました。

(関連記事25ページ)

Public relations magazine

2011.12 No.688

てしかが

主な内容

- 弟子屈町功労賞表彰式……………2
- 広報紙はいかがですか……………4
- 12月は町税等完納強調月間です……………13
- 新給食センターに雪水冷熱冷房導入……………14
- 戸籍の電算化が始まります……………15
- 町税などの納期限……………35

てしかが 2011.12

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/企画財政課 ☎482-2913 ㊟482-2696
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

R100 この広報紙には再生紙を使っています